

# 横川町の活性化に

第一工科大学



# 賑わいある まちづくりへ

第一工科大学の建築デザイン学科は、キャンパスがある霧島市で横川町を対象にした地域活性化への活動に取り組んでいる。建築サークルの学生ら「写真」を中心に空き家リノベーション計画やウォーキングマップの作成に着手。地

元から期待・注目を集める中、積極的な姿勢で賑わいのあるまちづくりを目指している。二つのコンテストを通じて推進する取り組み。いずれも地域活性化を図るもので、森元一准教授の勧めから始まった。横川町が舞台となったのは、同大学の卒業生である麻生大雅助手が同じテーマで卒業研究をしていたこ

とがきっかけ。人口減少や空き家増加が続いている現状なども踏まえた経緯もある。

県が主催の「空き家を地域の宝に！活用アイデア学生コンペ」に挑んでいるのは吉田慶佑さん(3年)をリーダー

とする「Enokidayoshida」の3人。地域活性化につなげるため7月以降から何度も現地調査や地元住民と意見交換を行い、空き家改修に向けた計画を練ってきた。対象家はW造2階建て。地元からの声を参考に1階書斎を子ども図書館、2階をシェアハウスなどとしてデザインする考えをまとめており、2023年3月に予定する最終審査に意欲を燃やしている。

部長の藤崎竜誠さん(3年)が率いる建築サークルは、県始良・伊佐

地域振興局が主催の「肥薩線×まちづくりアイデアコンテスト」に挑戦。地域に隠れている魅力を知ってもらおうと、ポスター班など2班に分かれて活動を進めた。このうちウォーキングマップ班は、丸岡公園や神社など約2・5時間ほどで周回できる内容をまとめていく。自然の中で非日常を堪能できるコースとなっている。

いずれも地域の課題解決へ貢献したいという学生らの思いが込められた活動。吉田さんは「地域活性化への第一になれ

ばうれしい。地元の方も協力的で楽しんで取り組んでいる」と笑顔。藤崎さんは「活動する中で改めて横川町の魅力を知ることができた。より多くの方に訪れてもらいたい」とほかにんだ。

# 地元から期待集まる